

学校HPはコチラ

**二 星**

唐桑中学校

令和５年度



校長室だより　№４

令和5年７月２０日発行

夏休みを迎えるにあたり「夏休み前 集会」より

　皆さんは「ウサギとカメ」を知っていますね。ウサギが寝ていたためにカメに負けたという話です。

この話からは、「いくら能力が高くても、油断は禁物」という教訓、また別の視点では、「努力が大事」という教訓が話されることが多いですね。

　油断してはならない。努力は大事。確かに言える教訓です。

でも、今日は、この２つよりも、「目的意識を持つことが大事であること」をお話しします。

ウサギは何を見て走ったのか。カメは何を見て走ったか。この違いを考えてみましょう。

　ウサギはカメを見て走りました。ウサギの目的は「カメに勝つこと」だった。だから、「カメに勝った」という確信を持った時点で、走ることを止め、横になってしまいました。

それに対して、カメが見ていたのは･･････。もちろん、ウサギも見ていましたが、それよりも大きく捉えていたものは「ゴール」。カメの目的は「ゴールにたどり着くこと」でした。だから、カメはウサギを追い越して、相手が寝ていることを確認しても、そこで歩むことを止めなかった。

気付いて欲しいのは、目的をしっかり持っていれば、ウサギは油断することがなかったこと。また、カメ目線では、カメは目的がしっかりあったことから、たとえウサギに競走で負けたとしても、ゴールでは自分の中に達成感を持てたはずだ、ということ。

　目的意識がある、ないで、結果が大きく変わることが分かります。

こんな話もあります。

　ヨーロッパの昔話です。旅人がある町を訪れたとき、建築現場を通りかかりました。そこでは、離れた場所で３人がレンガを積んでいました。旅人は、それぞれの人に聞きました。

「あなたは何をしているんですか？」

１人目はこう答えました。

「見れば分かるだろ！レンガを積んでるんだ！」

この人の目的は「レンガを積むこと」。何の楽しみもありません。「あぁ、つまんねぇなぁ。」という声が聞こえそうです。

２人目はこう答えました。「家族を養うために仕事をしているんだ。お金が必要なんだよ。」

この人の目的は、「お金を稼いで家族を養うこと」。他にもっと稼げる仕事があれば、この人は今の仕事をすぐにでも辞めるでしょう。

３人目はこう答えました。「私はね、すごく立派な、この町のシンボルとなる教会を作っているんだ。」

この人の目的は「立派な教会を作ること」。目の輝きと、この仕事に対する誇りも感じます。

では皆さん、それぞれが積んだレンガの出来を想像してみてください。おそらく、１人目のレンガは雑だろうと思ってしまいます。２人目は･･････、ムラがありそうですね。仕事終わりの時間には、道具をほったらかしで帰っていきそうです。

それに対して、３人目のレンガは、きれいに丁寧に積み上げられていることが想像できますね。

同じ仕事をしていても、目的意識の違いで、こんなにも人間は変わるのです。

　「心を込めて仕事をする」とよく言いますが、君たちが毎日行う掃除も同じですね。

目的意識を持たず、ただ作業をしている人と、みんなが気持ちよく生活できるように、と目的を持って掃除をしている人では、仕上がりに大きな違いが出てきます。

勉強も同じ。例えば「あの高校に入りたい。」でも良い。「将来、こういう仕事に就きたい。」でもいい。「先生に褒めてもらいたい。」でも良い。「親が喜ぶ顔を見たい。」でも良い。

目的意識をしっかりと持つこと。目的意識を持たない人と、持っている人では、その結果に大きな違いが出るはずです。

さぁ、明日から夏休みが始まります。

君たちが過ごす夏休み。勉強をする目的、部活動をする目的、家の手伝いをするときの目的。

　目的意識を持つことの大切さを知ってください。

　２つ目。私には宝物があります。もし、それを失ったら、と想像しただけで気が狂いそうになります。失ったら気が狂いそうになるもの。私は、それが自分にとっての宝物だと考えています。

夏休み前に伝えておきたいこと。それは、君たちは私たち学校の先生方にとって、この上なく価値のある宝物である、ということ。君たちが君たちのまま、そのままの姿で生活してくれていることだけで、私たちは幸せなのです。君たちが真剣に取り組んだり、悩んだり、笑ったりすることが、私たちのエネルギーになっています。見ているだけで幸せになれる。まさしく君たちは私たちの宝物です。だから、この夏休みは、毎日会えることができていた宝物に会えなくなることがものすごく不安なのです。

いいですか。その宝物を君たちに預けます。何よりも自分の命を、絶対に大事にしてください。

明日から３４日間の夏休みです。充実した夏休みだったと、君たちが振り返ってくれることを期待して、お話を終わります。